二十八夏

[illegible] 并宮

哥ニ詞を若ニ[illegible]

[V. 26]

PL788
.4
.G4
1654
vol. 26
Asian
Japan
cage

LIBRARY OF CONGRESS

2004551302

源氏廿六夕の六月のるゝ　六条院ノ

いとあつき日。ひんぐしのいりをどれまいで（源ノ）のそ
すぐ三絵。中（タ）ねのさきもさふらひ。語。しるさしき要ぶ人
あまるさふらひて。まし川（桂河ニ）よりまわるあゆ。ちうき
川（賀茂河ニ）のいしがしやうのもれ。おまへまて高うじて
まいらす。例のちゑのきん（柏本ノ才ニ）ぐち。中（タ）ねのれあるを
鶯にて来りゐへり。さうぐしく（源詞）ねふるかりいる
なり。よくもれしゐへるかれとて。おほうきまいり。
ひ（水ニ）ぐめして。すいちんなどとりぐまさうどき
つくふ風（北）いとよくふけども。日のどうまくもを
なきをの。まし日まちるほど。蝶のこゑなどもいと
くるしげまきゐれば。水（源詞）のうへむ（無源）とくなる事ふの

あつかましさかれ。むしいのつゝいゆるされなんやと
て。よりかしぬへり。いとかうころいおそびなどもす
き夜じく。さすがにくしがたきとそくるしかれ。
こやづへするわきひとぐ〻こへがたくかんな。おびひ
ひもとゝぬほどよ。うくまてごゝ打こゝぐれ。この比
世まあらんことのすゝしくねぶこさ
めぬべからんこと。鍾(かたち)て男をのへ。なまとなくおき
なびまゝるゆちきて。をけんのこともおぼつるしや
などのたまへど。めづらしきことにて。うちいてきこ
(柏木ノ弟弁少将荻侍伝ハ地之)
えん抱がたりも覚えしバかしこまりたるやうまて。これ
いと涼しきかうらんよ。せなるをしけくさかしひ給。

いうぞ（源伺）きくしことぞや。おとゞのこれごろ。ほう
ぞしまむ（長志）をれこぞ。いぞく。かしづき給とま
ねぶ人なんありし。まことりやと。弁（柏ノ才）かねり
とひこまへぞ。（詞）ことくしう。さまでいひなすべ
きことまもまべくざりけり。これ妻のころほひ。爰
がたりしまはけりを。ほのきくつゝへけり。女（長志母）の我なん
うれべきことあるとなれり。如給りけりを。中（柏木）ね
（あきん）朝臣なん。写つけて。まことまさやうまをふれぞひぬ
べきしりやあるとこぞ。ほとひ給けれ。くは
しきさ夜いえしり給ひぞ。げまこの代めづらしき
世がたりにあん。ぺぐもし給ひ。うやうのこと

そひとれこめをのづからけそむなるわざり 侍
かれとさきも。まことなりとおぼひていと（詞）おほう
めるつるまちなれこんをくるくりをしねてこづる。
詮こんがかくつけきぞりしいとくもしまうま（源ノ氏子ノすくなきと云之）さやう
なるん抱のくさもひ。こ出まほしかれど。名のりを
抱う紀ときもとやしふんん。更にこそ罪る。さてを
もてきなれこうことまはあらじらうがもしを
とくまぎれぬふめりし程に。そこをくすまぬ
水にやどれる月にくもりなきやうまいぞりあ
らんと。ほく思ふての詮。中（夕）抱（地）の君もくりしくをく
めへることなれば。そしもまめごとず。お抱（柏ノ才さちこ）と夜侍従とい

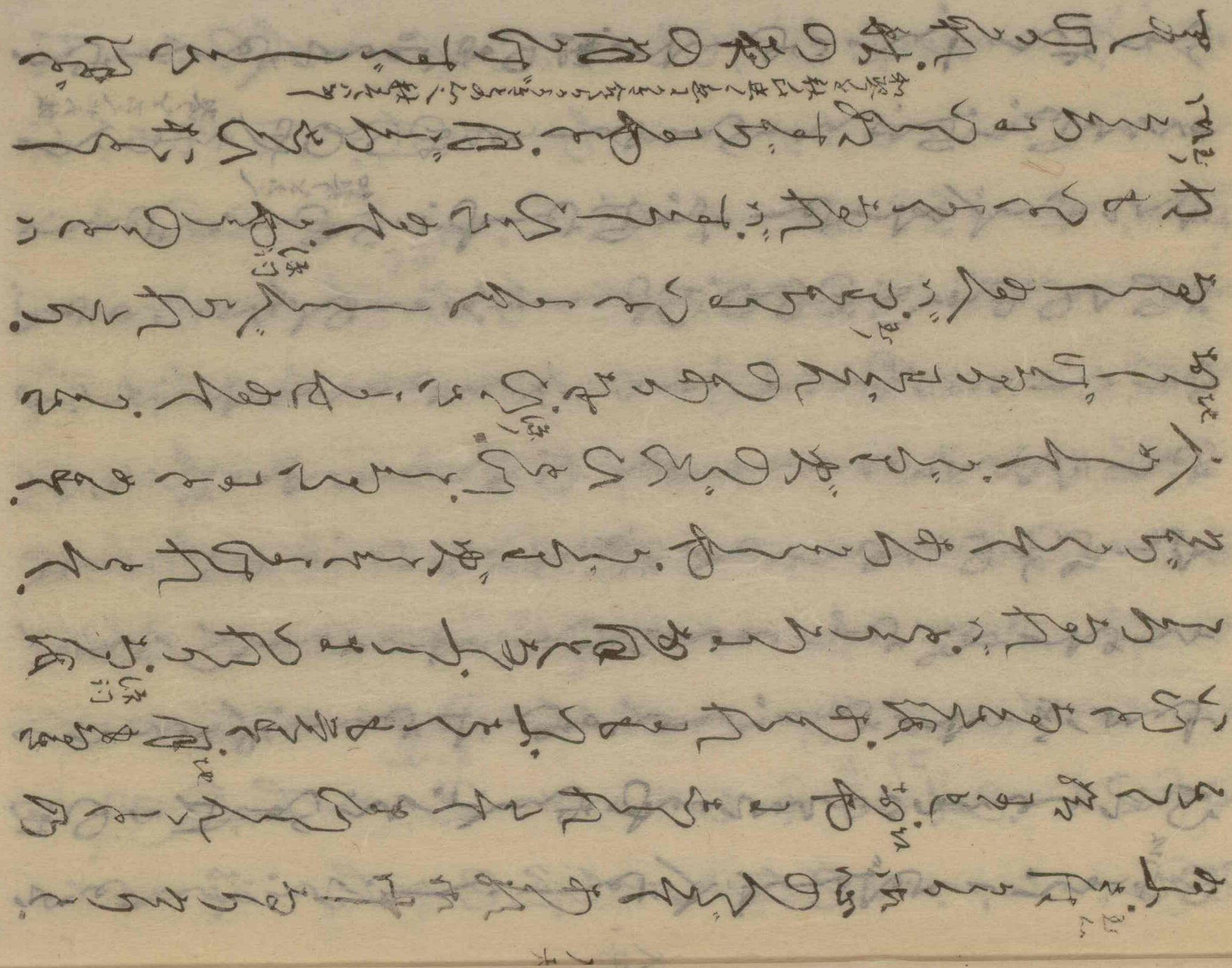
いとうしとしたひたり。朝臣や。さやうのおち紫を
ざまひろへ。ひろきゑの後のよまあんハおなじ
かぎしまてなぐさめんまおぞうことゝあらんと。
ろうじ給やうや。かやうのことまてぞ。うちべもいと
よきれ中の。無りしよりさすがまひまあるけれ。
まいて中将をいくてもしこなめて。けびさせ給つ
らき給ばしあまりて。お後ねたしとも。もりきて
めへりしとおぼして。なりかうきて給まつけても。
ぬいの姫君をうきたらん時。あれづしもしらぬ
りさまてを。まてさはぎなんもや。いとも此きらく
しくかひあり所つきたまへる人まて。よきあしき

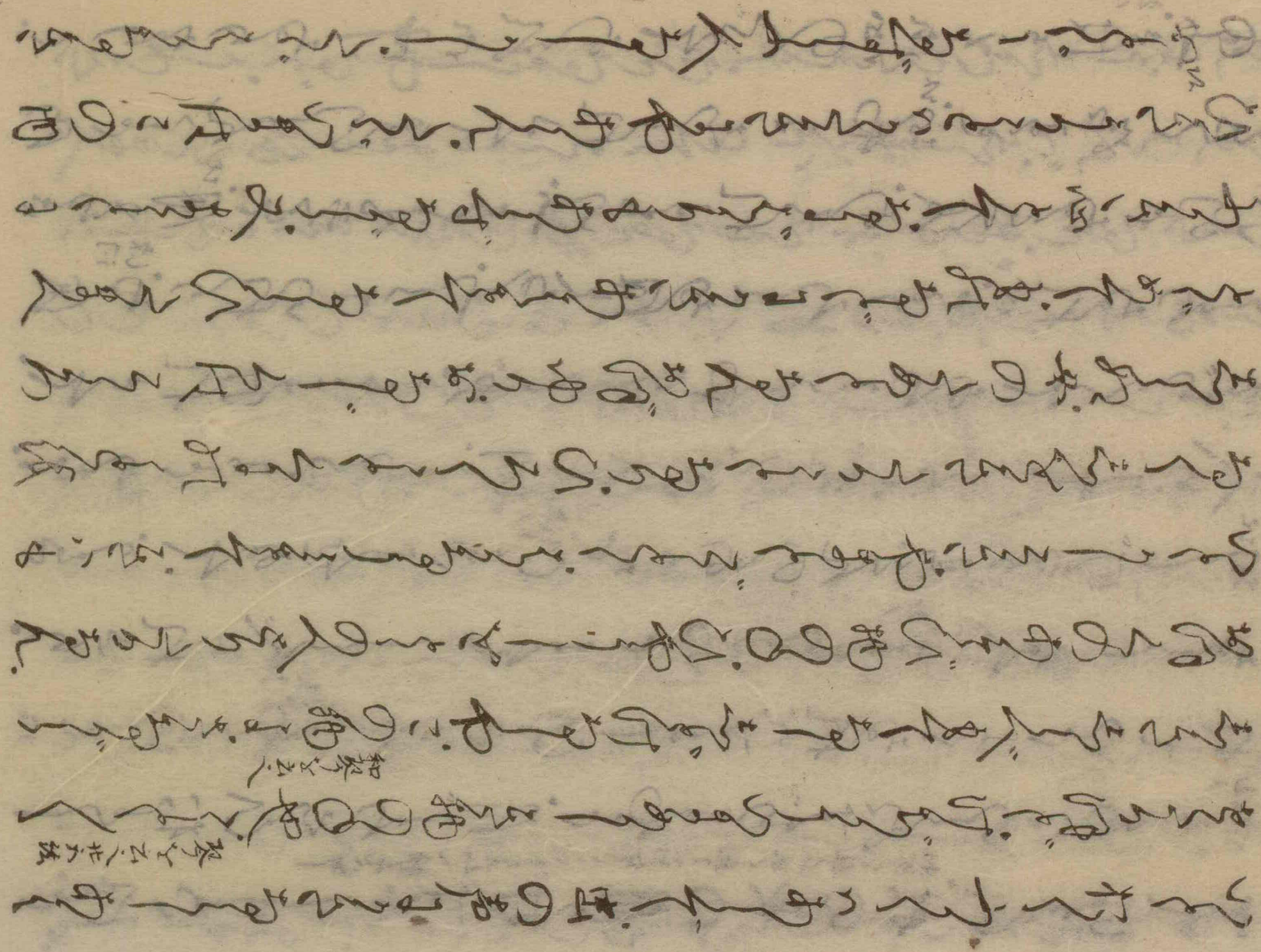
けぢめもけざやかなもてもやし。又もてけちかろ
ひることも。人にことなるおとぐなれば。いかりもれ
しとおぼしたんとも。そこぬさ夜にて。この恵を
さし出たんに。えかろくはおぼさじりし。いとさ
びしうももてなしてんとおぼして。少つけゆく
風いとすごしくて。かへりうくつきへぐいたひ
たり。心やすくうちすごまんぬ。やうくかやうの中
りもいとしられぬべきよもひてりもしすつもてり
かりやとて。かしの恵につくりぬへど。恵ぐちこれ
れをくりに来り給。こそれば。のおぼくしさに。おなじ
なをしぜなれば。なるとも。つきまへられぬる。

源氏
おとゞ娘君をすゑしとかいぞのへとそ忍びてかね 柏ノ木
ね渡あまりてまうでこそりいとうけたまはし
げるさへるを中ね文のいとしゆうの人ありて聞そ
こめむじんなるありしこの人ばこれせふころなき おかね衛門
なくしちきとくしみことそくる。まだのうちなる
ほどもほどなるさるげのてゆりしくおぼゆべき
ふくしなれどこの家のおぼしうちくのらぐし
しこ移よりいいとせるすきそぞくもうなん
つひむなすべあるうでもれどめれどさ女ずる
人のすきぞといひひらんまつきなしうくて
かれしのへどいでうさやうなん人のみしきの。

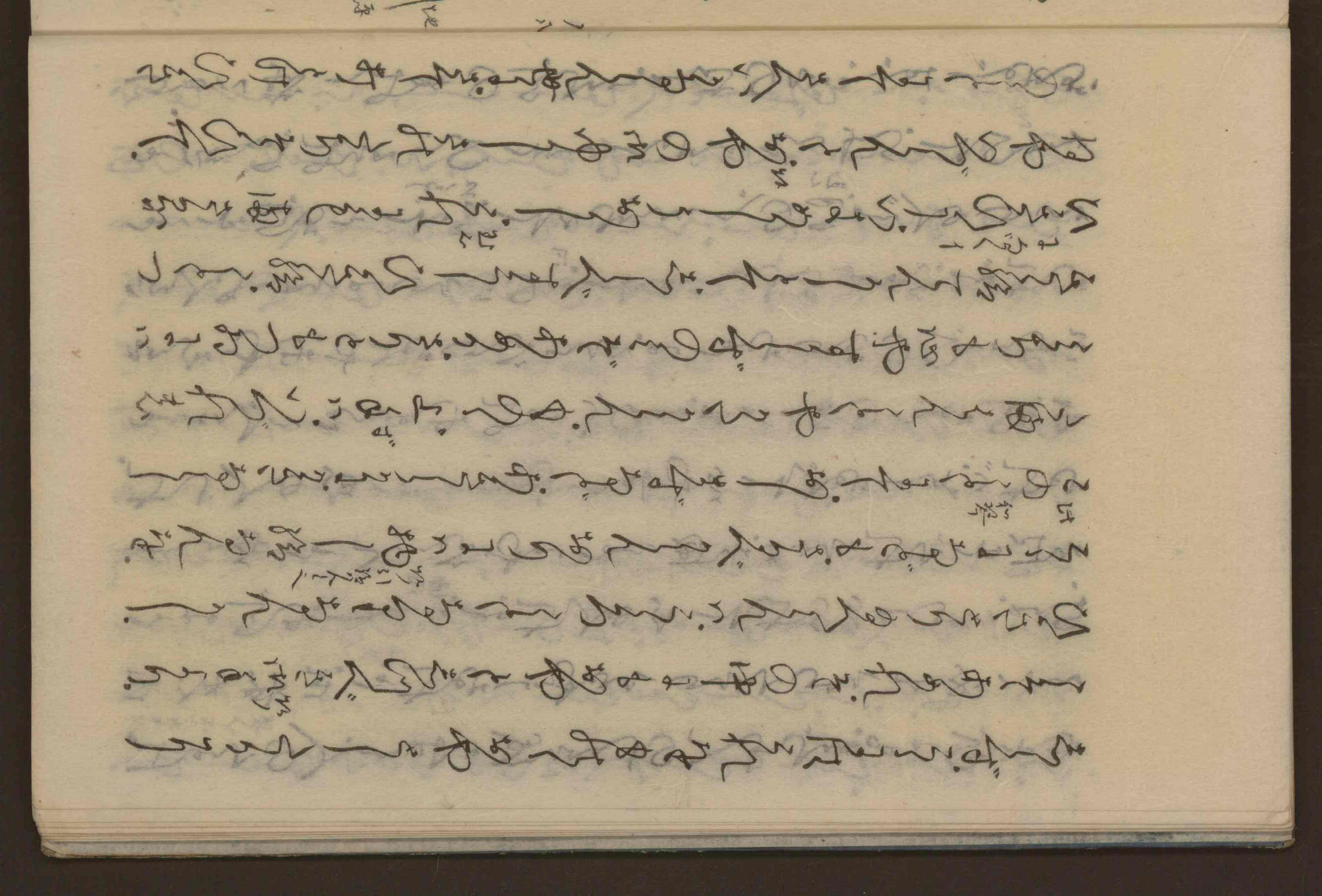
あさあさとも云んなど。さりぐしきまくは
ねがひせしを。ほいなんかなしけななど。
さくめさ罪ゝ給。此（ひ、ゆ）まへはこゝろがちしき前戒な
どもうへさせ給ひず。なぞしこのいろをさくのへ
こゝろのやまとれまをいとなつしをゆひな
して。さ記こゝれこゝろゆゑぞへいというじうこ田。皆
こちよりて心のまくはもおりさしぬを。（涼討ゑまの給之）おりぞしひ
つゝやすふいうそくどもなりな。心もちねなども。
さりぐにつけてこそめやまそれ。右中（こゝざの）将（柏）はまして
すさしきびまりて。心さびうしげさまさまていう
りぞをとづれきこゆやさしなくもなさし

ちなみち給そなどの給。中(タ)将の君ハかくよ紀中にも。
まぐれておしげにな海めきぬへり。中(タ)将といひ
給こそおとゞハ浪いなけれ。まじつも地なく。きらく
しかめる中に。お浪君ぞ。すぢまて。かくなく望
とにやとのこまへば。(注詞)きまきだといふひとも侍りけり
をと罪ち給。いで(源詞)その此さられまてもやされん海ハ。
ねがちしかしぞ。こゝおきなきどち。むすびをきけん
こゝろもとけず。逢月へぞてぬふこゝろむけのつ
らきなり。まぐ(タノ)ぞらうなり。世のさくこゝろしと
おもはれば。志しぞかまてこゝにまゝ勢こまへ
らんにうしろめたうもありなましやなど。うめき





あるじすぐさのねは。よろげのまれし孫こまり
よひて。いふるまなくこそひじまれげまと
うちりぬべぞ。[illegible]のぐころさて。[illegible]いそぞとぬげまこと
なれど。いとぐいぶりしてこ[illegible]のけうりまさりぬべき
れあそびのありなどは。きく侍りなんや。あやしき
山がけなどの中にも。まぶまれあまるまぐること
なれが。としなべて心やすくやとこそ思ぬへつれ。
さはまぐれこそは。さ面ことにや侍らんとゆりし
げは。さちる心いれて。ぬへれど。[illegible]さりしおげまと
こそ。ぬもこちくぐりうちやうなれど。此前志此
あそびにも。まづふんのつきぬまも。人のくまは



給さんをきんねゞとひおのきりぬさ河のふ乃
やちくるゞるゞ。ゝとあらしまことひ給。おやさら
つま成。すこしうちつひとつけゞとあしずりきさ
あつしかへるすゞ。これ行ゞひとつしずおもしろう
そゝもゞ。そでのきかへざえいへりあんちぢぬるゞ
あり。さうしかれんぞうりこそ心のうちはとそ。かのかつらハ
もゝ人もありけめおまゝてくれ候はひさあまを
さうらんこときゝとおきちまゝてしのへゞさうお中の
人間まそ。ほのつま京人とあれ申けり。あつお月宅
女のたゝへとゝしそれゞ。ひゞとはもやとり
まつそ。ゞお申れ給ひずゞありしもひとさ給いあん。とつて

とらへさせやと心もとなきこのれことをまちて
ぞおもひねざりあって、いかなる風の吹きぬべてかう
ハひとさ給ふぞとて打ちあつきあへるさ海はつげる
いとつれもげなりけりへあそ、さくらつくらぬ人
のあはれ見が、たよりなむ風も吹きぬらしとてなし
やみ給いとく心やすし、人ぐちもうさあんだ例乃
ささつれどもえ参て給ひぞあそしるとおぼでも
世人ぐのおほきりぬるれ、いとぞあはれなるこの
夢ぞのくもはん、世もいとつれあるさをさあま、
いみじくも物のいぞまりあれむさまへりしも、
いかなる所にまいるぞあり ゆふさすまし の給ひぞ

ちりまもいとあはれなり

あずしこのとこなりしき女（江ノ）とこがもとの

（夕顔と志こ）うきつ○を人やうぐ○まこ（詞）このとのまづりしさま

こそかんだまりも心ぐらしうせひ（きこ）罗ゆれとの絵。

（ひ）こそこうちなきて

（ま）山がのまれまおひしあずしこのもとの

孫ざしをれかうぐ○ん（比）ちゐげまさそしなの絵

へるさ夜げるいとなりしうつやゝなり（源）こ

ざしましうばとうちどむじかて。いとぐしき

れこそかんりしきまぐ。れえ志のびちつまじう

ねばさうげうりのふとも。おまりうちしきり。人志

くもりとがむべきほどはこゝろのさまをおぼし
とゞめそ。さるべきことゝもしりて、これよそのうへを
ぬありあし。さこのれうとのこ。おけられ清
こゝろまうへきよう。おぼぞうくあいあさきほどをして。
やすらぬ地もひとすゑん。さむもじとてこゝろの
まうまもあるが。世の人のそこありいかんことのかゝ
がゝし。紙。ほどゝめいさる地まで。人のれさるゝ
いとあしかるべし。かざりあるされこゝろざしと
いふとも。墨の人のれおぼしまあらぶざりうき
紙こゝろあざしえあるまじくおぼしきりたり。
さてそのおそりのつゝまそハ。おかざりうハあらん

けが身ひとけこそひとよりはことなれ。うん人を
あまるゝが中にはうづらりんすゑまでは。何乃ぞ
うはさけうらん。ことなりことなき納言（なうごん）のきはの。
ふる心なくてもちんにはをとりぬべきことぞと。
えづらしぬぼしもうにいとくおしうて。こや（雲）
ちぶ（ひげづら）ちまどるやゆりしてまし。さてもてもなれ
いざなひとりてはもひこしなんや。いふかひなき
まてもさもしそんとおぼしてありもありされど
けうりなてかうちをえなふ。今はれことをしん
なふにさへことつけて。ちりやうなれよるに語。
姫（む）君もちじめこそひくつけくうこそ見て語しが

くてもなぐらうまうしろめたきれころハなり
かりとやうくめなれていとしもうとゝきそ
語りぎさうべきれいらへもなれくしかゝぬほど
まさそしかしなどしのて（深ノ心と）ころまくりあい
ぎやうつきかほりまきりぬへれバなれさてもえ
すぐすまじくそしうへさうさてまさてこくなが
らかしづきすへてさうべきなりくまさうらう
悪び地をも罪なぐさゝなんやかくまる世なれぬ程
のまづらしさそこころぐりしうハあるかれ
どのづらしきもりつくとも地の心をしりそめ
いとおしきまひなくて ワがころもいひいりなぐ

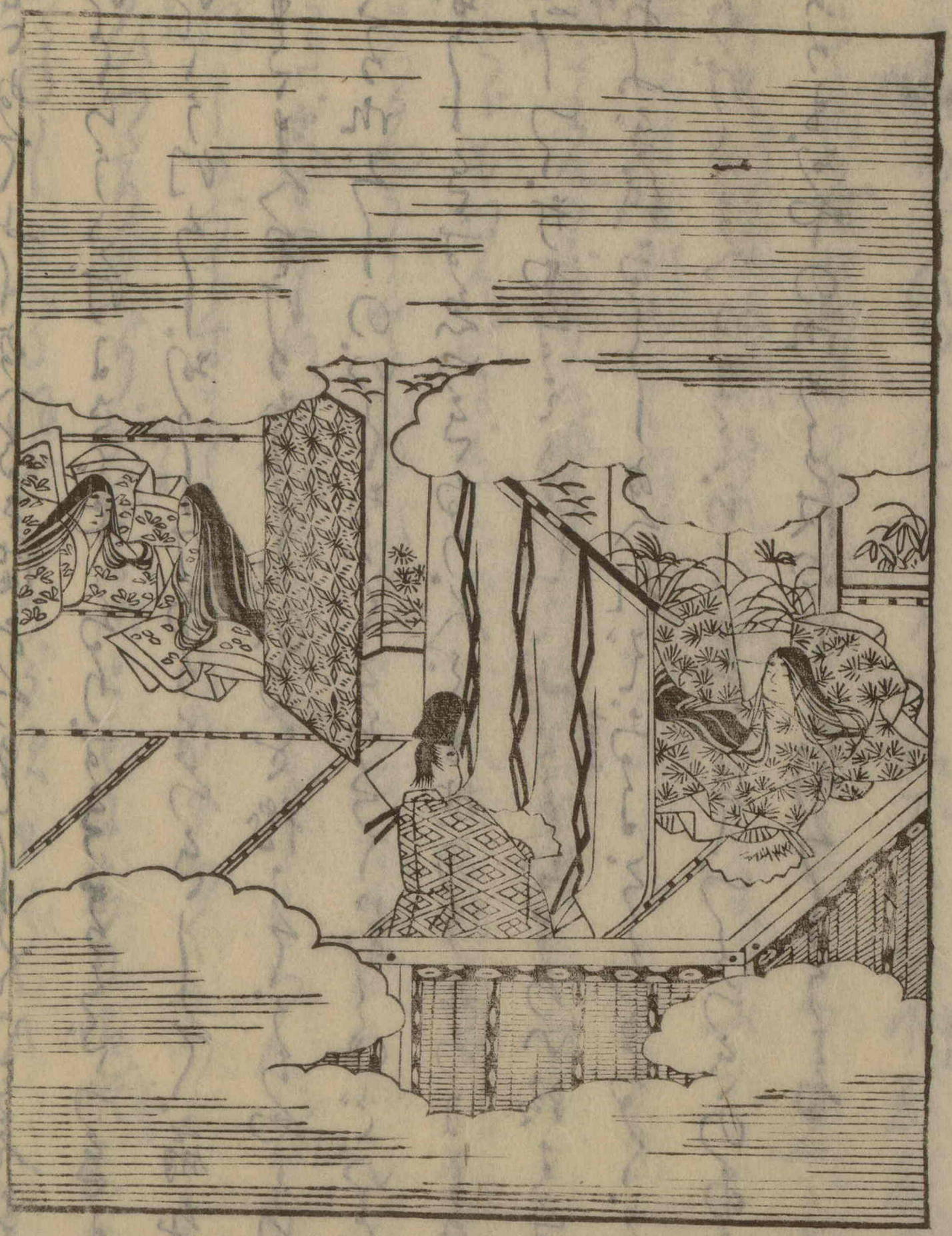
しげくともさりしかしとおぼしようもいと
かしかしぬれころあるやいかくころやしかしず
むけてんもろしかしんおれめるしひすぐさん
ことのとき夜かうぞ夜まるさぞよげかぞむつ
かしきれかしひあるけり内(北)のおほ(は)いとのかこの
いまのれむ(手江志)すめれことを夜(は)の人をゆるさずかう先
いひ世まも御きろことそしりいふと男給ま(柏ノ才)お物の
ことのいでまおほきおとぶ(源)のさうことやさらひさま
ひしことかたり男しかれがいひ(は)ひかて(詞)さし(源)おしてま
こそは年ごろととまも男しぬ山がけのまさ(むくう)かく人
出てまれめしころれおきく人の人もどき給ぬ

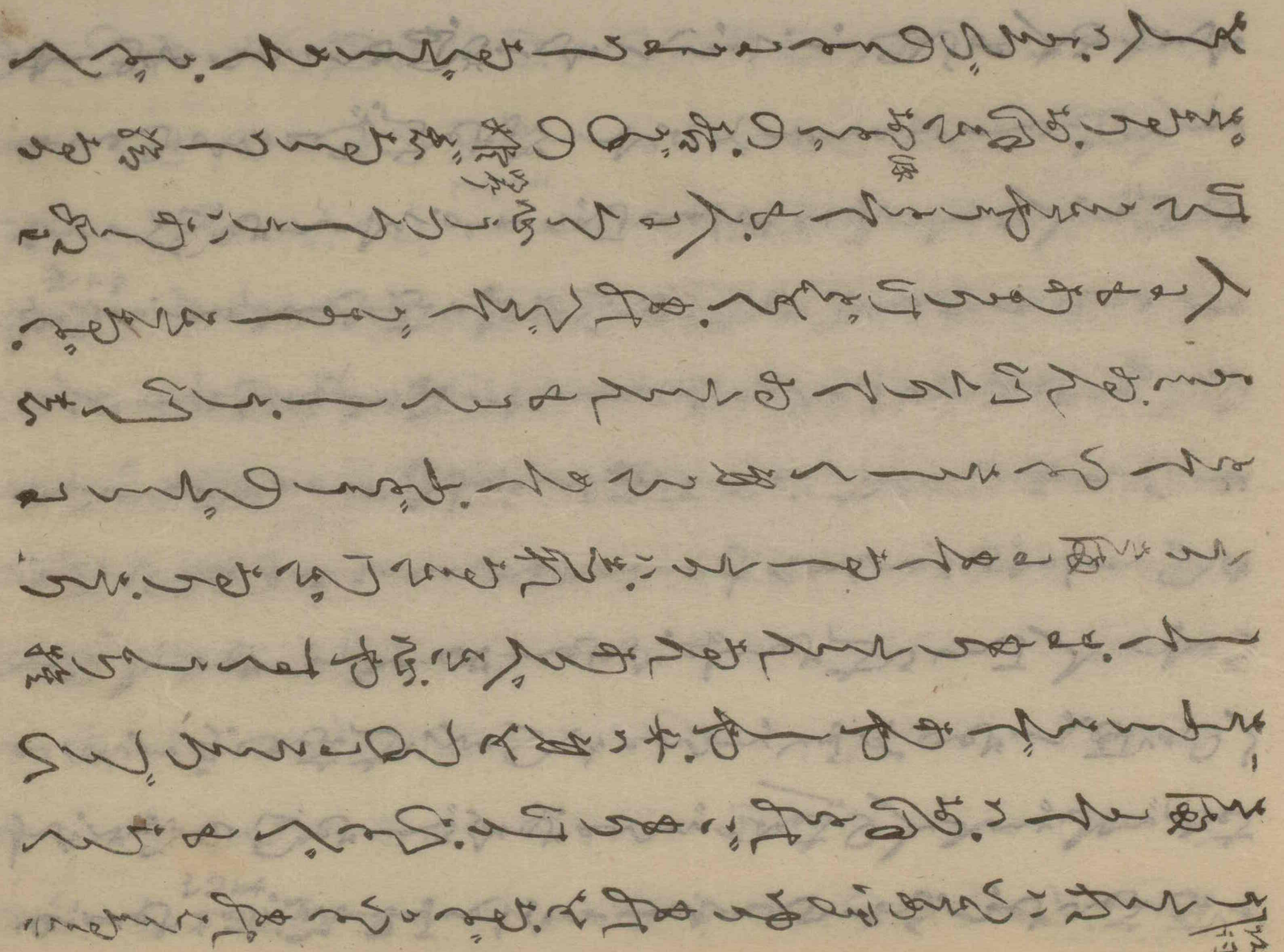
おとぐ（ほ）ぞ。このほうのことはこゝとぶめてそ。
おとしめ給や。これはぞおぼしあなこゝちし
けりとの給。（柏ノ才詞）おねがれましの墓ましまへ人（び）な。
いとゝもあきけるひこゝもあらりまなん給ふ。
（雲）其ゆゑのこゝやなど。いたう心とぶめての給ひづしふ
とかおぼろけにはあらじとなん。人ぐとしたり
給めりとゆゑへば。（紙詞）いでそれも。かれおとぶの（ほ）れ
すめとおもふぞうりのおぼしのいというじこそ。
人のころこれされこゝそあるせちなれ。かなしず
さしもしぐれ給りじ。人ぐしきほどなしば。年ば
ひとつまりしおとぶのちりもつゞず。このせま

すぎさめへる此身のおぼしありさ夜まおもぐしき
くらまむすめうしづきそげまさぎちりんと。む
やつとめでこさが抱き給ひ○バおほうこ子のすくを
なくて心もとなきちめりし。をちぐらちあれど。
あしのおもとれうえ出さうへしも。さうせつり
なきすくをまて。おうやうあんとおぼゆし。その
いま姫(む)若ハようをぎは。だちの此こまもあらじかし。
さすがいとかしきあり所にいきまへる人まて。
もてなの給ちんと。いひおもし給。さていかに
さぐめらちあり。見(量)こしそまりし之給へん。もと
よりとりつきて此ちりもよし。人がらもかうさく

なるれあそひなんかしとの給てハおを娘(雲ゐ)恋志れ
ことおぼ口おしくかやうにころまくるもてか
しているしれさんとやすらぼいぶかしがら
せましもれをとねるそれバくらゐ(タノ)さぢりと
こざらんかぎりハゆかしがくおぼしなりそり
おとぶ(深地)もねんぱにくちいれかへさの給ちぐこそハ
まくるやうにてもなびかあとおぼすをおとこがる(ハタ)
ちゝ文にいられ給ぬぎころやましくなんとかく(れん)
おぼしめぐらすまゝにゆくりもなくかゝる
ちひ(以雲ゐへ)ワうりぬくりかねもれともに氣り給娘(雲ゐ)恋ハ
いましめへるほどなりう須もおくひとへを

きぬてふしぬへるさ後。おつかもしくいこえぞ。
いとらうたげにさぞやかなりすきうちぶつきも。
いとうけんし。おしげなるうちつきして。扇を
もてまへ置けるなぐしかひなを枕にてうちやれ
たるれぐしのいとなぐくこちたくいあるほどいと
かりしきすゑつきなり。んぐも袖のうちろにより
こしつゝ。ぢやすこしれだ。ふともおどろい給はず。
あふぎ紙なしぬへれだ。おるごろもなく。ん
あげたまへるまゝらうたげにてつゝつきのあう
めうもおやの御めにはいとうけんしうこも





社討
かたれハいさめぞゆりまれとおどかいとまれたるまこ
さ海にてハ御ほとれごもりけり。ひとぐもちく
ぎゝちそであやしや。女ハ身をつゐにころづひ
して。ぎまりたんなんあるべき心やすくうち雅
うさ海にもてなしうるハ。忘れなきつぎなり。さり
とていとさしく身ゐるめて。ぶどうのぐらに
ようぬんけくりてねたんもまくしうけく志
人にもあまりけどもく。まれへぐそがましたるど。
けたうきやうとても。人にくる心うつくしうハあるを
ぎなり。御ほきおとぐの。君が〇の姫君なるりし給なる
をしへハよろづのことにまりしなぐらめて。かどくく

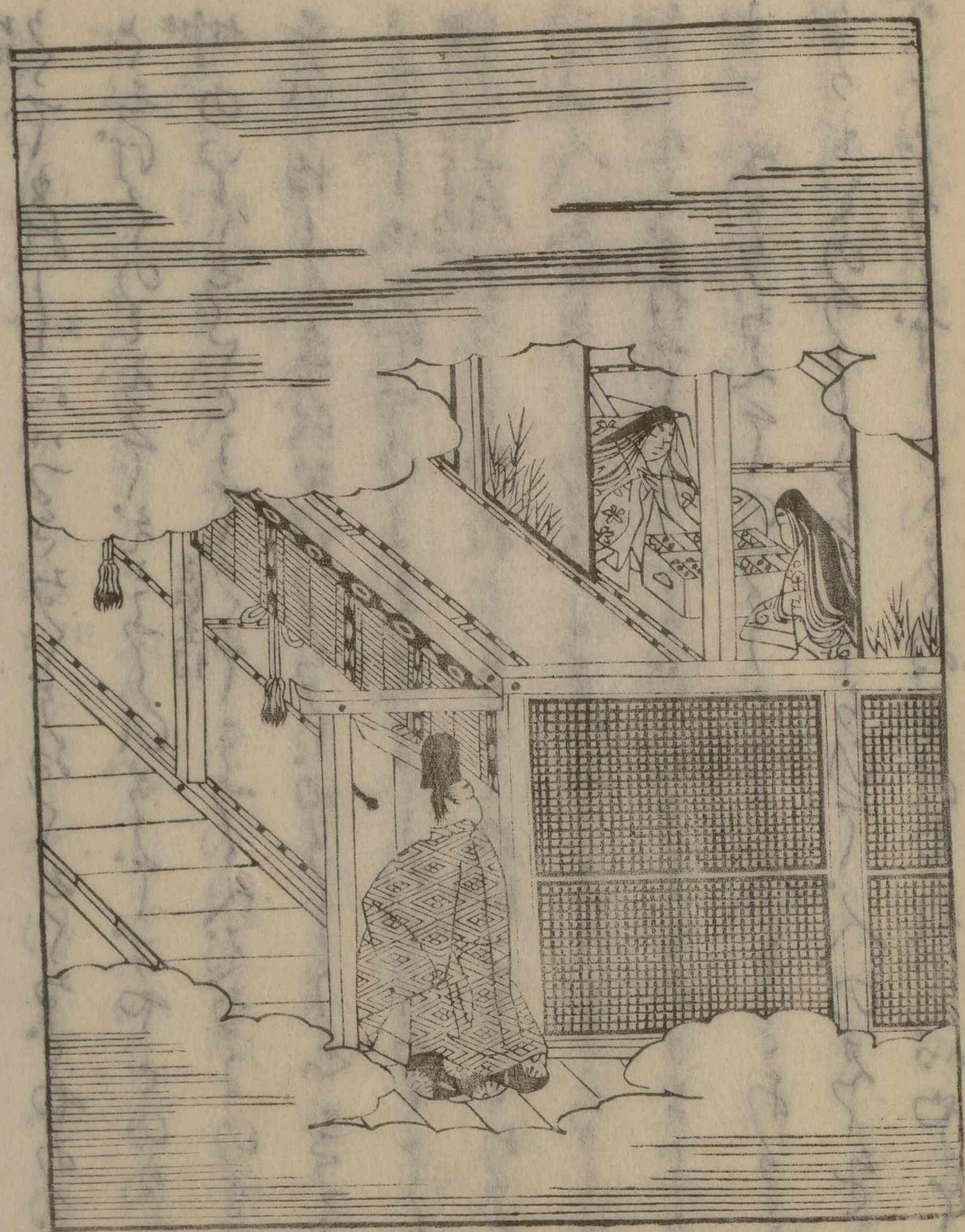
しきゆへもつけじ。こどくしてあぼめくこともあらせ
じとぬるしうるこそをきて給ゐれげにさもあること
なれど。人にして心にもすりつぎにもこそくなびくなる
もうことあるまれなればおひ出給さ夜あらんし。この志
の人となり。宮づへにいざしこそ給ひ。世のそしきこ
そいとゆしかれなどの給て。しゐやうにまゐらんと
しひしすぢはかくきやうになりにたりなれど。
いかで人ワらわれなんず。しゐすしまゐんとなん。人のう
へのさ夜ぐなるを罪ごとに。しひこぞれ侍り。心こゝとに
ねんごろがん人のねきごとにおしげしなびき給ひ。しゐ
さ夜侍りなどいとらうしとしつゝ罪の給。昔はなるまず

をもふかうさひしらでなりくさしあらりていと
おしかりしくとのさはぎるもおもなくてこえ
なりけるよと今ぞさひ出るもむかしゆるがりていとど
うちづしき御家よりもつゐるおばつるきこと紙
恨罪しぬへどくのふふ家がつくましうて。えはるを
えしなり給ひず。おさぐ。この小の墓のいまだ(そのえ)をいかり
きんさうしるむ人ぬてきて。ひとりそしりとてか
へしをくんもいとりぐしく。地ぐりおしきやうなり。
りてこめをきこれば。まことるりしづくべき心ありと。
人のいひおすなりもねらし。女(こさぐん)れのれりるなどり
まどらいきて。さうおこのもれはしれいてん。ひとの

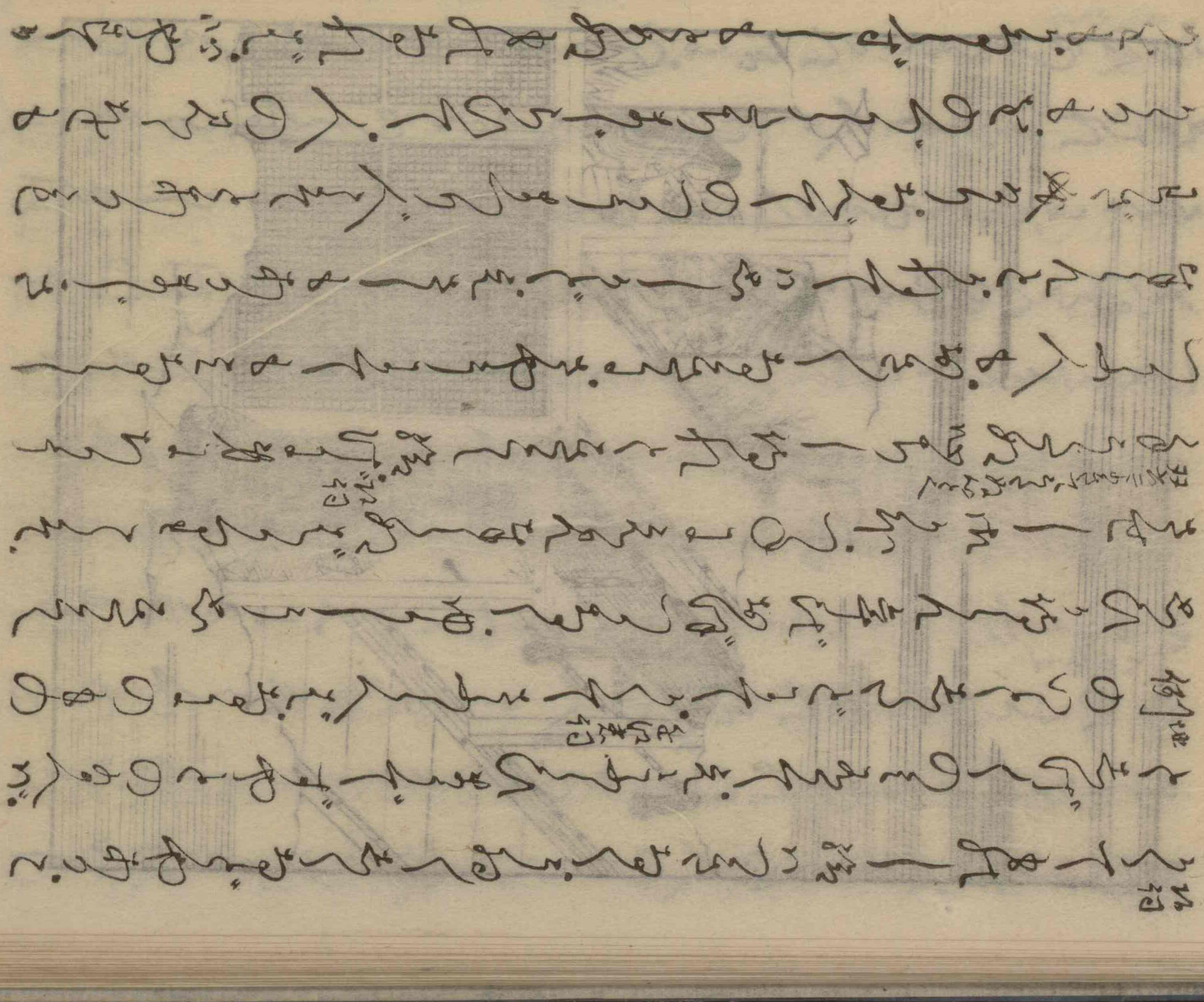
き梅ハうまうまなりしげまハなくて。いとあそこま
もろこし地のちうしさき梅をひて。面白き梅花
茶のひらけそう。あきばしけきて。のこりおほ
かげる閑ゑさをへるぞ人まことなりけつとこ
なり給。中納のさ?い人ど。ころつわさこざりのもすく
ちまとなりなれども給も。いとおしげなる人のれおぼく
かれやがてけれるのこうま。うてずもおりして
のぞきのへればすぐれさるくをしちうて。めちち
のさこそざれうつ人のおなかとすぐろく
うち給てなをいとまちかまへて。きうさいきう
さいとつこゑぞ。いとをかしげなるや。おれうしてそと

おぼしつれど、もの人のきこえをもてなさせいし
まそおぼゆれまどはれはじめるかうらうまさりしの、つゆき
めひとつをこえつれ給ごの人もえうる気色もやまぬが。
此君しゃくとゞうをひねりつゝ、とえるも打あげて
中まうひにありやすんびと、おまへふうき徒ども
しかりかうちにひぢぐる。さすがるおいぞゆう
つきつるるまてかきうりかりきろげそすり
とひくいのいとちやるうと、この恋のありけれ
きこまそこちきれうちありきうそうしとは
うけれども人とおしがくべくもおしずかずきうよ
らひおもきられ給まうとすくをとうづきうし

ノ十七



（以行）
うくてもれし給いつきなくうねくしくなどやあるこ
としげくのみまてえとふしひまうでずやとのみへが
（地）例のいとしたどまてうくて（手は志行）さふしへだなるのもの
せひり給しん年代あげつるまゝゆりしうしたえて
させしれりかつるまえんなしぬだうなこそ
（双にこのきてうたぬんとく）
なうたぬ心ちし給れとしてし給げ（以行）ま方にちうう
つふ人もおきくなるさまさやうまてもこなし
なしんとうれてはしかどえさしもあるまじさ
はぎ（以）なりなんてのつうまつり人そとあるを
うるもをのづしたちまじらひて人のみくをも
うどもうなしずしもとめぬもれなれだ心やさくゝ



べかめれ。それぞるその人のむすめ。かれ人のこなど
しらるゝきいまなれば。おやもしらるのおもてぶせ
なるゝ女ぐひおほかめり。ましてとの給さしいる。此
氣女のもづしきもしらず。何かそはことくしく
しめんて。まじらひ侍しぞこそとろせりし先。
おほゝおほつぶとりまも。つゝりまつりなんと思へ
こまへば。えねんじ夜もでけりひめてまいり
かしりしぬやくなくつまかくむさうりあんな
おやは。けうぎんのこゝろあらばこの地の給こゝ思を。
すそしのどめてきりをこまへさしばいのちものび
なんかしと。をこめき給おとぐまて。ゆくしきての給

しるのかどまこそハ侍しめおきなく侍し時ぞうま。
こ母のつねまくるしがりをしへ侍し。妙法寺志
べくうだとこのこぶやまに侍りけり。おへもれとなん
歌侍給へし。いそでこのしるとどきやめ侍らんと。志
さけぎさうもいとけりのうろゆく。哀なりとこ給。
そのけぢくいりうちうりかんだとこそ。何ぢき
なりかれ。さぐそのつこのむくひなるを。をしこと。
どもりこそ。大そうそしりうつこまも。かぞへこめり
しとのなて。こなぐらたげしげまおとすな
れさ後まこしまとんこそとづしけれ。いかり
さぐめてかくあやしきけひもうのぞ。まこん

よろしけれと歌道し。人ぐもおほくこゝろざし。ひらく
きんことさ。歌のひへし語拙なし。女郎の異名
あれし語ころ時ぞ問ありて。ひとの流り海
なども言葉のえりしことちうこそうまき人も。
なそのさしへいまでらひ。ぎりくゝさはなれべ。さても
ありめかし。きうこゝろしてきこえ落り語なすんやと
のぞまんべうこゝられしきゝはこそ待りちあれ。ぶ
いぞでもく。流るぐらうずまへられなきん
ことをるんばそもさあても。さしぞろあるはぐよ紙
ちひるへつゐもおほしずれゆうしず待しが。ゐな
ろくうんずきてもづうりあんと。いさよげる

いますくしさえづれば、いふかひなしとおぼして、
詞 いとしかりさちて、こしきぐひろひ給ひぞとも、来り
給なん。こぐれあへもれましけん。法の師ぞ母は
とをくいと。地 ぞこごとりの給ちすなきしらず。
おなじきぞだとこそもう中まもいとこそよげる
抱くしく。菓やうなる夜して、おぼろ皆志
へこしまくきれくしきをもこしらず。春宮詞 さていけか
女れどれへ来り給ふんと字ゆれば、詞 ようろしき
日などやいつべくらん。よしことくしくは何かは。
何もとこそれば、かふまてもとの給すてくつかり給ぬ。
地 よき四位女位なちのいつき字にて、詞 うちこぶろき給

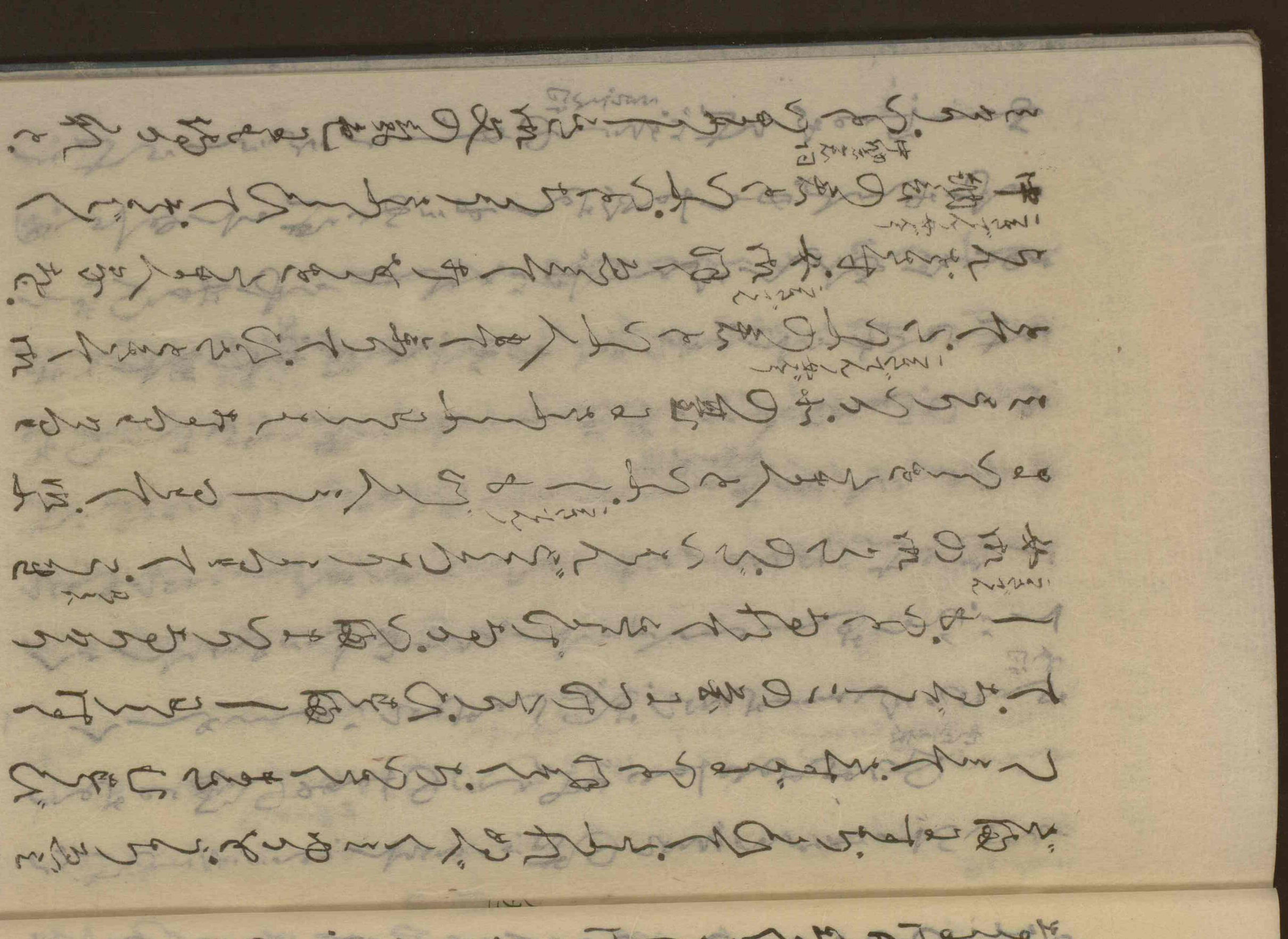
まもいといかめしきれいきほひなりを。見をくる
きてして。いで（全江志詞）あれめでたけがれおやく。うりなる
これなどしおやしきこ家なおひ出けることく
のこまへば。又きち。おまり（おせち詞）ことくしうとづしげ
まぞおもすう。よろしきおやのおもひしげんん
まぞこゞれ出られ給はましといふもまりなしや。
れいの（全江志詞）志の（みせちを云）人のいつとやぶり給。いで先ぎ返し。
いまはひとろくちまことぞなまぎられそ。あるやう
あるべきまとそあめれと（地）たしぶち給ふほけき。
けぢうあつぎやうつきて。うちとけそばれたるは。
さるかるおりしうつとゆるされたる。多ぐいと

ひなびおやしきしきしきの中におひ出ぬへれど。
抱いふさ海もしらず。こしなるゆへなさこと紫をも。
のどやかなをしきげめて。いひいづしらるも。う
ちさくこゝにとる花。おしかゝぬ哥がたりを
すかもこゝをづひつきぐしくて。のたり思ふを。
もとす急おしこゝろさ海にうちずじこゝかも。
ゆきすぢおぼゆぬほどれうちさくにいおしか
なりと。こゝもとまかり。心ゆくよしあること紙
いひねたりとも。よろしきこゝちあんとも罪しぞ。
あはつけきこはざ海にの給いづることば。こはく
しくことぞぞえて。我もまゝはうらなひしろ。

めれとのかところよりあらひたる海よりもてあるし。
いとあやしきよやけるなりけり。いといふかひ
なくはあらず。そそもじあまり。もとすゑあはぬ哥。
うちこくうちつゞけなどし給。さて女は愛りし
まいれとのるまへるを。しぶくなる海なるゝは地
しうもしそなげをよさりまうでん。おとゞのきこえ天
下よなげすとも。このれうるゞの。すけなうもて
なし給ひんよは。愛のうちよしそりなんやとの給
地はなほしのほどゝうろゝなりや。まづれ文をまき給
おしがきのまぢうきほどよはさふらひなどし。いま
まぞ入げふむだうりのしうしも給ふぬはなくその

関(せき)とやすへさを給つんとなん。しらねどもむさし
野といへばかしこかれど。あなかしこくやとて
ひがちまで。うらまはまとやくれまもまいり
えんとぶらまへたつは。いさふまをゆるまや詩らん。
いでやくあやしきを。これを川まをとて。まる
をしまかくぞ

草(壬江)ワりとひたちのうらのいかぐさきいかぞ
あひえん。女この浦治。おほかはのと。河(地)をさきしさし
ひとうさ。まいとさうがちまいかれつてのぞ乃
すぢとをこえしぼ。たぐよひたうさぶ海も。しをしじ(しもしりイ)
ながよ。ワりなくよしばそたり。くぐりの海どち



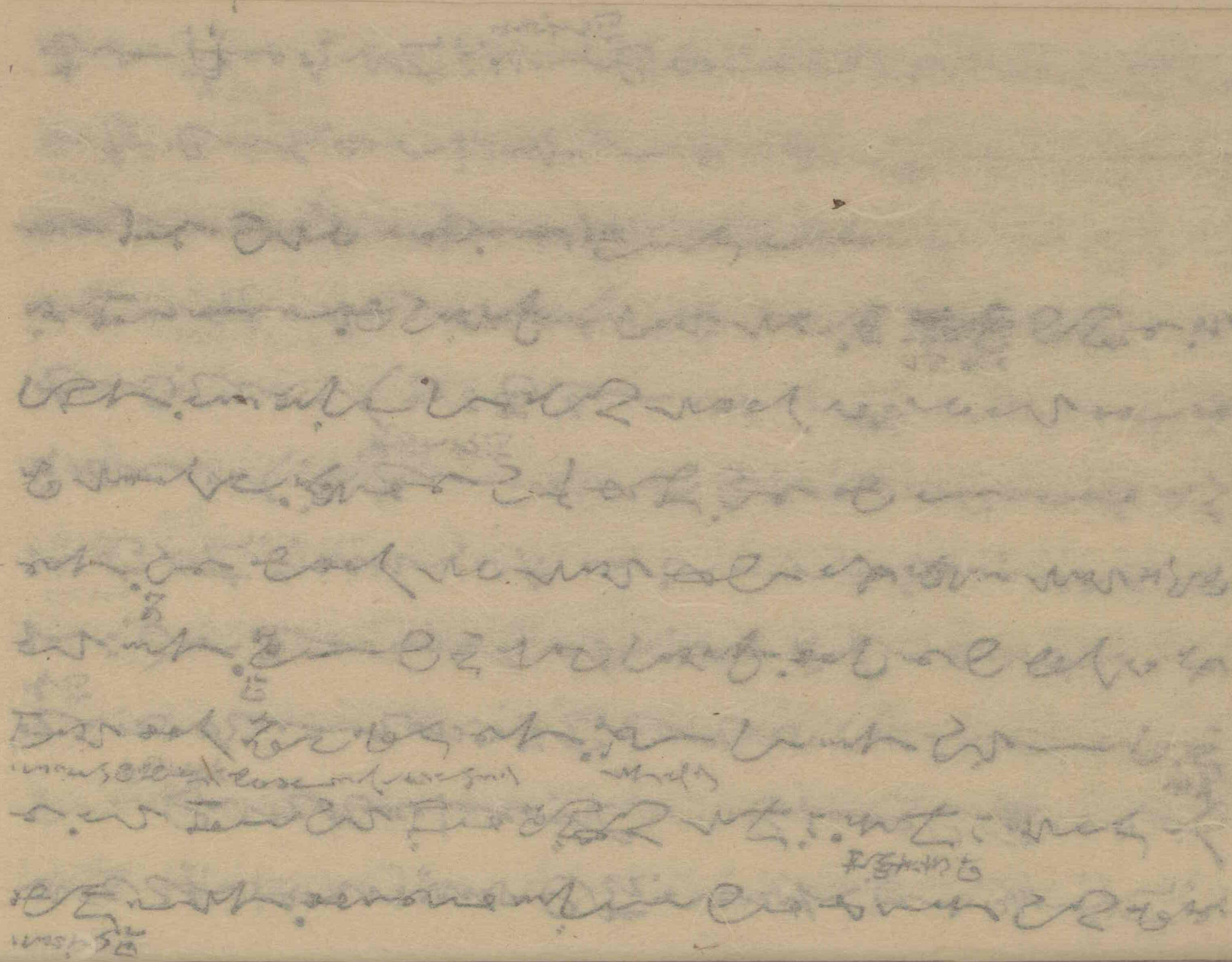
ざ海ますぢうひて。さふれぬべくこゆるとうちゑこ
つこそ。さすがよいとはそく。ちいさくまさひまひび
て。おぞしこの茶はつけこうひ。まゐしまゐはく
しもいとなれてきよげなる。い海まいりなりなり
女れ(こうさぎん)の れくのぞいちんどころなりこゑまて。こうき(ほうそ)
まいしきこまへといふ。しもびんこうしまて。れふ(こうさぎんノ)
ことりいろ。小の墓まさふしふまもしまるまる
とて。こいふ(こうさぎんノ女ぐらう)の茶といふ人まて。ありて。ひさとまて。れ
らんぎさす。女れ(こうさぎん)はくゑこそ。おせうきこまへ。なを。
中納言(こうさぎんノ女ぐらう)の茶といふ。いとちうさふしひて。そぞく
ゑかり。いと(中納言同)いまありしきれ文の氣色まも侍るれと。

ゆしげるせられば。さうしのもじもうらうらねば
こきでん付
まやあらん。もとすゑなくもゆれとてゆへり。
るゝかくゆへくしらしぐはゆうしとやまひおと
されなんやとて。うきゆへとゆづり給。地もて出てこそ
あらは。つきゝ人ぐは柚おしうて。これうちつゝひぬ
中御十宗詞
れ返りこへぞおしさゝとのすぢまのゝまつれ
て待れば。さそしさせまくとそ。きんじがきめき
てはいとおしうらんとて。ぬゝめきてかく。
多詞
ちうきしちうきおぼつちうきはうらめしく
中御言宗
ひくちちうすうがれうとのすまの海まちゝ
さらいでよもそぞきの松とかきて。よゝこさゝれば

こきでん詞

ノ九三終

あれうえて（こまざん詞）まことまこづくのまもこそいひちを
とかくはしいくげまぬぼひこれば（中仰天志詞）それはきん人
けきまへ（こまざんのあれはあるまじと人ノきりんとこ）ゆりちんとて（そなこ）おしつくえていざしつ（壬注）
りくえて（詞）おしのれくちつきやまつとのまへるを
とて（地）いとあまへくろくきものくを色くくきしめ
ねこまへり麁まといふもれいとあしくりまかい
つけてかくなづりつくろひこまへるさうかくりま
ぎはしうおいぎやうつきくりれ（こいめん）對面のほどさ
しすぐいくろとくもあんかし



69038
6 AP78